

ワーケーションの聖地が目指す転職なき移住の実現 ～保育園留学とふるさと納税の活用～ (和歌山県白浜町)

取組概要

和歌山県白浜町は県内唯一の空港を有し、年間300万人超が訪れるジャイアントパンダや温泉が観光資源の町で、近年はワーケーションの聖地として注目を集めている。

白浜町での保育園留学の取り組みは、平成の大合併により白浜町となった旧日置川町が舞台となっており、旧町の人口3,000人足らずの当該地域は全域が高齢化率50%を超える限界集落の状況にある。

この地域へ子育て世帯を招き、子ども同士の交流と地域経済の活性化を進め、より多くの関係人口の創出と地域振興に繋げるため、保育園留学と現地消費型ふるさと納税の連携を行った。

取組の効果

令和5年10月の受け入れ開始以降、毎月留学生を受け入れてきており、現地では子ども達の積極的な交流が見られるようになった。利用者への留学後アンケートでは全員が再訪したいと答え、早くも友人家族を連れ再訪されたケースもあった。

留学中の滞在費用としても30万円近い現地消費が行われていることから、地元経済へも一定の効果を上げている。

創意・工夫した点

海・山・川の全てが揃う地域で様々な原体験ができるようなフォロー体制を組んだ。現地消費型のふるさと納税システムとの連携も図り、より関係人口の深化が図れる仕組みを作り、地方へ来られる方のニーズを汲み取ることにより、地域での交流・体験が可能となるメニューを四季に応じて用意することなどを考慮した。

他団体へのアドバイス

この地域には市街地では当たり前にある娯楽施設や大型商業施設はなく、あるのは豊かな自然と人の温かさだけ、そんな典型的な地方の過疎地域と言えます。

その“なにもない”があることをパッケージ化することにより、都市部では得られない体験を通した関係人口創出が可能になるのではと思います。

人口20,113人 (R6.1.1現在)

担当 総務課



豊かな自然環境の広大な保育園 (手前)



感想は「第二のふるさとができました！」